

ONE for ALL 8

Vol.67

月号

J-LEASE COMPANY NEWSLETTER

2018 August





【社長近影 / 平成30年6月27日 第15回定時株主総会】

平成30年6月27日、ホテル日航大分オアシスタワーにて第15回定時株主総会を開催いたしました。

当社は先般東証一部に鞍替え上場を果たし、4月には一般社団法人日本経済団体連合会（経団連）にも入会をいたしました。当期は札幌支店、岡山支店を出店し、北海道、中国地方で新規営業を開始するとともに、茨城支店、東京西支店を出店し、首都圏エリアでのさらなる営業拡大に取り組みました。

また、営業拡大に伴う代位弁済立替金の増加に対応するため、引き続き債権管理業務の集約化など債権管理体制の強化に注力してまいりました。さらに、事業者向けの新プラン「J-AKINAI」の提供を開

title : 第15回定時株主総会報告

始し、営業チャネルの拡大に取り組みました。

民法改正により連帯保証人の極度額設定の義務化や、敷金返還や原状回復のルールの明確化され、家賃債務保証へのニーズはよりいっそう高まるものと予想されております。

当社は、今後も外部企業とのアライアンス強化にもチャレンジし、「生活サポートの総合商社」として、社会に貢献できるよう、役職員一同、一層の企業努力に邁進してまいります。

平成30年7月25日

ジェイリース株式会社

代表取締役社長 CEO 中島 拓



株主総会の様子



取締役・監査役一同

トップ会談

～視覚障がい者の社会参加を考える～

中島 拓(なかしま ひらく)

大分県大分市出身

1957年生

1980年3月 中央大学法学部卒

2004年3月 ジェイリース株式会社設立
代表取締役社長就任(現任)

2016年7月 大分南ロータリークラブ
2016-2017年度第39代会長就任

(著書)

「検証 過払い」

「お金を使う人 お金に使われる人」

「よくわかる! 家賃債務保証の知識」

大胡田 誠(おおごだ まこと)

静岡県中伊豆町出身

1977年生

2000年3月 慶応義塾大学法学部 卒

2004年4月 慶応義塾大学大学院法務研究科
(法科大学院)入学

2006年3月 慶応義塾大学大学院法務研究科
(法科大学院)卒業

2006年9月 司法試験合格

2007年12月 渋谷シビック法律事務所 入所

2013年4月 つくし総合法律事務所 入所(現在)

中島社長

本日はお忙しいところお越しいただき、ありがとうございます。
大胡田先生には当社の業務面でも大変お世話になっており重ねて
お礼を申し上げます。

大胡田先生

こちらこそいつもお世話になっております。ジェイリースさん
のご活躍は様々なメディアで拝見しています。本日はお招きいただき
光栄です、よろしく願いいたします。

中島社長

さて、大胡田先生は視覚障がいに屈することなく大変な努力をさ
れ、司法試験に合格し弁護士になられたんですね。弁護士を志した
動機をお聞かせください。

大胡田先生

私は先天性緑内障を患って産まれました。この障がいは新生児の
2万～3万人に1人くらいに見られる遺伝性のもので、成人する前
に視力を失う確立が高い病です。私も徐々に視力を失っていき、12
歳で失明しました。眼が見えなくなったことは、まだ幼かった私に
は受け入れ難い現実で、しばらくは自暴自棄になってしまいました。
あれは中学校2年生の夏休みだったと思います。図書館で本を
探していましたが、偶然日本で初めて点字で司法試験に合格した全
盲の弁護士、竹下義樹先生の『ぶつかって、ぶつかって。』という書
籍を見つけそれを読んで大きな衝撃を受けました。私は視力を失っ
たことで、人生のあらゆる可能性が閉ざされたと思っていました。
しかし、私も努力をすれば、弁護士という社会的責任の重い職業に
就くことができる。誰かの助けになれる。そうすれば失明したこと
によって自然と持ってしまった、自分が他人より劣った存在である
というコンプレックスから開放されるかもしれないと考えました。
それから挫折を繰り返しながら、大学、大学院に進学し、8年間で5
回の司法試験を受け、日本で3人目の全盲の弁護士になりました。

中島社長

そうですか、先生の大変なご努力に敬意を表します。また、大学
受験や国家試験においても、視覚障がい者への門戸が開かれるよう
になったのは素晴らしいことだと思います。

大胡田先生

その当時、視覚障がい者にとって一般大学の受験は大変なこと
でした。受験勉強をしたくても、教材が点字になっていないことが多
く、たくさんボランティアに点訳をお願いし、点字の教材を用意
することから始めなければなりません。点字受験をさせてくれる大
学も限定されているので、色々な大学にお願いに伺いましたが、「安
全が保証できないから駄目」「今年は準備が間に合わないからまた
来年」、などと断られてしまうケースも多くありました。そのよう
な中で慶応義塾大学法学部は点字での試験を認めてくれました。あり
がたかったですね。

中島社長

なるほど、そういった苦労も乗り越え進学され、司法試験にも見
事合格。一般の方とは違うキャリアを積み重ねてこられた弁護士と
して、この経験が仕事に役立っていることも多いのではないでしょ
うか。

大胡田先生

私自身、障がいを持っていることで、差別を受けたり、苦労をし
てきました。ですから、トラブルを抱えて相談に来てくれた方の想
いを理解する、寄り添うという面で、大変役立っています。弁護士と
して法律的な支えのみならず、精神的な支えになることができる
ことが私の強みのひとつです。

また、全盲の弁護士の頑張る姿が、トラブルを抱え自暴自棄に
なっている相談者が人生を前向きに捉え直す、ポジティブなメッ
セージになることがあります。以前、担当した刑事事件で実刑に
なった方より刑務所から手紙が届きました。裁判の際に大変お世話



になったので、いまは刑務所で点訳の作業をしているという内容でした。あれはとてもうれしい出来事でしたね。

中島社長

素晴らしいことです。眼の代わりに心でモノを見たり感じるものがたくさんあり、それが弁護士という仕事に活かされているということですね。障がいを持ちながらも活躍する大胡田先生の姿に、相談者をはじめ多くの方々が励まされていることと思います。

大胡田先生

弁護士という職業に限らず、障がいを持ちながらも活躍している方は多くいらっしゃいますし、活躍できる力を秘めている方も多くいます。しかし、社会の理解が十分でないことから、活躍する場を持ってない、雇用に結びつかないのが現状です。

中島社長

当社も視覚障がい者を積極的に雇用していますが、彼らはよく頑張ってくれています。

大胡田先生

もちろん、努力だけでは乗り越えられないことも多くありますので、周りの皆さんに配慮していただくことは必要だと思っています。しかし、これまで「視覚障がい者は情報障がい者」と言われていましたが、昨今ではITの進歩により、視覚障がい者と正眼者の情報格差が縮まりました。企業側にはこういった点に目を向けてもらいたいですね。

また、これは賃貸住宅に関する話ですが、私が大学に入学する際に一人暮らしの賃貸を探していたときのことで、私が入居を申し込むと「段差が危ない」「火が出たら危ない」という理由で何度も断られました。これは健常者が障がい者を十分に理解していないから起きる事象だと思います。視覚障がい者が火事を起こしやすいというデータは存在しませんし、生活に不便しない程度の訓練は受けています。危険な段差は位置を覚えてしまいますし、逆に部屋を把握する上での目印になることもあります。理解しようとしてくれないやれるせなさにとて傷ついた思い出があります。

中島社長

障がいによる物理的な壁よりも、周りの方が理解してくれない、心理的な壁が、障がい者を苦しめているということですね。入居のトラブルはその中の一例かもしれませんが、我々は創業以来、家賃保証を通して、障がい者の社会参加の手助けを行ってきました。特に障がい者、高齢者、外国人への家賃保証は、我々の得意なフィールドだと言えます。

大胡田先生

ジェイリースさんの特色は良く存じております。ありがとうございます。

もう一つ、ハードとソフトという視点で言いますと、いくら障がい者保護の法律をつくっても、個々の中にある心のバリアを壊さなければ、差別はなくなりません。ここで重要なことは健常者と障がい者の対話です。このケースであれば、不動産屋さんに「ガスの処理はどうするんですか」と質問してほしいのです。そして障がい者側も「生活訓練で使い方はなっています」と、不動産屋さんを安心させる答えを出す必要があります。

中島社長

対話を重ね理解しあうことは非常に重要ですね。

大胡田先生

健常者と障がい者の共生社会を実現するには、お互いが一歩踏み出し理解しようとするのが重要だと感じています。話は違いますが、日本の中に障がい者が何人いるか、ご存知でしょうか。約860万人です。これは日本中の佐藤さん、鈴木さん、高橋さん、田中さんをすべて足した数より多いんです。



駅や会社、学校など、人が集まれば、中には先ほどの苗字の方が一定数はいそうなイメージですが、街中を見渡しても、駅や会社、学校などにそれほど障がい者は見かけないですね。こう考えると社会の中に障がい者が活躍することを阻んでいる見えないバリアがまだまだあることが実感させられると思います。

中島社長

約860万人の障がい者がいることは知っていましたが、苗字で例えると想像より多く感じますね。

大胡田先生

障がい者を受け入れることはまだまだ負担や義務として捉えられがちですが、実は障がい者をはじめとする多様な価値観を受け入れるということは、社会全体の活性化に直結します。最近アメリカの社会学者リチャード・フロリダの「クリエイティブ資本論」という本を読みました。彼はクリエイティブな活動をする共同体の必要条件是、Talent、(才能)、Technology (技術)、Tolerance (寛容性)の、3つのTだと述べています。彼は社会学者としてアメリカの色々な都市を研究しましたが、シリコンバレーやニューヨークなどといったクリエイティブな活動をしている地域はLGBT(性的少数者)の割合が高いそうです。これは地域社会に寛容さがあることを表しています。そういった面では、日本の社会にはまだまだ多様性に対する寛容さが不足しているように感じます。

中島社長

それは社会においても企業においても言える事ですね。障がい者やLGBTなど少数派の方々は自ら表に出ることは少ない。だからこそ、当社はそういった方へ対する理解の深い会社になりたいと思っています。

また、当社は「挑戦した結果の敗者にセカンドチャンス」をテーマに、活発な意見や多様な価値観を認め合う風土の醸成をスローガンにしています。

大胡田先生

ジェイリースさんのような会社、中島社長のような理解ある経営者が今後ますます増えることが、日本の社会活性化の道筋であると思います。

中島社長

私はこの4月に皆さまの協力をいただき、「一般財団法人中島拓奨学基金」を設立しました。この財団は、人生の半ばで視覚障がいになった方々を対象に、その様々な方々の社会復帰のため、返済義務のない奨学金を提供します。視覚に障がいがあっても、学びたい学校に行ける、就きたい職業に就ける、そういった社会の実現に向けて微力ながら活動したいと考えております。また、大胡田先生には当財団の理事をお引き受けいただき、ありがとうございました。

大胡田先生

このような素晴らしい活動に携わる機会をいただき、大変光栄に思っております。私自身、学生時代は奨学金に救われていました。障がい者が社会で活躍する上で、教育は大きな武器になります。中島社長をはじめ本財団法人の皆さまのおかげで多くの障がい者が社会参加する機会を得ることでしょう。

中島社長

ありがとうございます。今後ともお力添えをお願いいたします。

大胡田先生

いまは健康な方でも、いつ事故や病気で障がいを持つことになるかわかりません。障がい者が活躍できる社会は、健常者が安心できる社会でもあります。そんな社会を目指して私も頑張っていきたいと思います。

中島社長

本日はありがとうございました。

寄稿コラム



今年の夏も暑い！

たくさん食べて、しっかり寝て、元気で過ごしましょう！

チームプレー

内閣総理大臣及び経済産業大臣事業認定資格
消費生活アドバイザー 水上 宏明 氏

元ロッテの里崎は野球選手だったとは思えない口達者。お笑い芸人が「送りバント下手なプロ多いですね。高校生的の方が上手いじゃないですか？」と質問したところ、「プロに来るのはエースで4番みたいのばっかで、高校時代にバントしているのなんか来ませんよ」。

なるほど。犠牲バントでギネスに登録されている元巨人の川合も高校時代はピッチャーでした。大リーグに行った大谷のバントも記憶にありません。それにしても犠牲バントとはよく言ったものです。

野球は個人競技ではありませんからチーム一丸となって勝利を目指すのは当然。とはいっても打席に立ったら思いっきりバット振りたいたろうな、とは想像です。それをやっているのが去年くらいからメキメキ出てきた西武の山川。空振りでもヘルメットを飛ばして、三振しても、とにかく表情が明るい。

試合後のヒーローインタビューでのやりとり。「チーム絶好調ですね。ベンチのムードいいですか？声でてますか？」「別に変わらないですね。プロですから。やることやればいいんです」。あのドカベンのような体形と笑顔でいうから許されるのであって、普通の選手なら矜感を買いそうなコメントです。

さて、サッカー。3連敗を予想していた専門家もいたくらいで、まったく期待されていなかった西野ジャパンが予選リーグを突破しました。

サッカーの勝ち負けは選手個々の力もさることながら、戦術も大きな要素。どんなスーパースターがいたとしても1人では絶対に勝てません。またスーパースターもチームの一員として走り回らなければチームは機能しません。

その点、野球はエースで4番のスーパースターがいれば、彼1人で勝つことができます。投げてはバットに当てさせず、打ってはスタンドに運べばそれで試合終了です。そうはいっても犠牲バントをする選手がいて、守備でもカバーを怠らない選手のいるチームが優勝することが多いものです。

高校野球型チーム、西武型プロチーム、サッカー型チームプレー、どれが好きですか？

以下、蛇足。この原稿が出るころはワールドカップの結果がでています。わが日本代表は、ひとつくらい勝てたかな。プロなんだからやっぱり華のある試合をしてほしいですね。

水上 宏明 氏
(みずかみ ひろあき)

内閣総理大臣及び経済産業大臣事業認定資格 消費生活アドバイザー
日本クレジット協会企画部長を経て現在フリーランスライター。
著書：『クレジットカードの知識』『クレジットの基本』（日経文庫）
『金貸しの日本史』（新潮新書）など多数。
寄稿：「恨みがあるならカネに言え」（コラム）
『日本金融新聞』に2006年から2014年まで231回連載。
その他：『月刊消費者信用』『朝日新聞』などに多数。



ジェイリース
J-LEASE CO., LTD.